

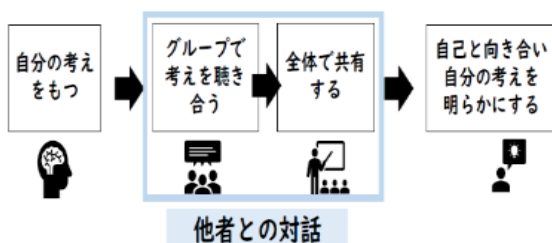
研究主題

「レジリエンスを高める道徳」～自己内対話を通して～

研究の取組Ⅰ 生徒自身が問いを持ち続け、自己決定する活動（自己内対話について）

本研究では、明海中学区の課題でもある失敗を受け入れ、粘り強く取り組むことを含めた心の成長を目的とした「レジリエンスを高める道徳」を研究してきた。授業実践の中で、様々な場面で考え、生徒が自分の判断を吟味し、理想解、模範解でなく、自分の納得解を導き出し、自己決定する活動を行い、自己と向き合い自分の考えを明らかにすることで、意思決定をする力を育成したいと考え、自己内対話という手法を用い、道徳の授業実践を行ってきた。

対話活動を通した学習を重視した授業モデル

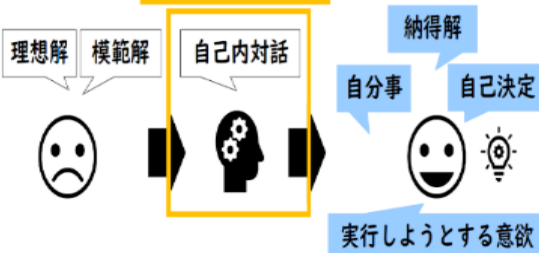


他者との対話を充実させるための
様々な研究、方法

一般的な道徳授業

自己内対話を充実させることで

充実させる具体的な
方法とは？



自己内対話を実践することで得られる効果

様々な場面で考え、自己の判断を吟味し、
よりよい自己決定をしようとする生徒

自分の納得解を導き出す

self2からself1への問いかけ
（自分の判断を吟味する）

他者の価値観に触れる

自分で考え、自己決定する

このプロセスを
充実させる
道徳科授業

自己内対話の道徳授業の流れ

取組2 異年齢集団による協働的な学び、異学年交流活動の充実

工夫1 学区全体での教育活動



①園児と中学生との連携授業

家庭科の授業内で「幼児とのかかわり」という単元で認定こども園を訪れたり、美術では絵本を製作し、小学校低学年の生徒たちに読み聞かせを行ったりした。



中学生にとっては、園児や児童から必要とされていると感じることで、自身の立場や責任感が高まった。



①小学生と中学生との連携授業

合築校舎の利点を活かし、道徳授業、部活動、特別支援、生徒会活動、行事など盛んに交流を行った。



活動を重ねるごとに児童生徒それぞれが自己存在感・自己有用感を高めました。また、主体的に交流する姿が見られるようになった。

主な成果と課題 (成果：○ 課題：●)

- 生徒アンケートによると、自尊感情に関する肯定的な数値が6%、他者との関わりに関する肯定的な数値が5%上昇した。道徳の実践を行い、他者の気持ちや他者へ与える影響等、自分と自分以外とのつながりを考えたり、多様な価値観と照らし合わせたりと、多面的に自己を見つめることを行えるようになってきた。
 - 異年齢集団での活動を重ねるごとに児童生徒それぞれが自己存在感・自己有用感を高め、主体的に交流する姿が多く見かけられるようになった。
 - 生徒アンケートによると、「自己決定した内容に自信をもって行動できるか。」という内容に関しては、否定的な数値が多かったことから、本学区の子どもたちの課題として挙げた、自信のなさというものは、大きな課題として残った。
- この課題を解決するためには、道徳を核としながら、特別活動等、様々な教科領域で、自ら考え自己決定し、成功や感動を体験できる機会を考えていくことが必要である。

中学校第2学年・小学校第5学年 特別の教科 道徳 学習指導案

令和6年11月29日(金)

1 主題名 きまりの意義・意味・よりよい生活

(中学校内容項目 A 自主、自律、自由と責任)(小学校内容項目 A 善悪の判断、自律、自由と責任)

2 題材名 「いらなくなったきまり」(光文書院「ゆたかな心」小学6年 一部改作)

3 主題設定の理由

(1)内容項目について

本主題は、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編の内容項目「A 主として自分自身に関すること」の(1)「善悪の判断、自律、自由と責任」及び中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編の内容項目「A 主として自分自身に関すること」の「(1) 自主、自律、自由と責任」を受けて設定し、を受けて設定した。

(2)題材について

この教材には、自分たちが作った学級文庫にさまざまな問題が起きたときにきまりを作ったり、守らない者には罰を与えたりしようとする様子が描かれている。クラスの問題が生じた際に、他者を批判しがちなこの発達段階の子ども達にとって身近な教材である。

(3)指導観(研究主題にせまる具体的な手立て)

手立て①異年齢集団でのグルーブトーク(対話的な学び・深い学び)⇒同年齢の中では、友達との感じ方考え方の違いに気を取られ、発言も委縮してしまいがちだが、異年齢が加わることで安心して発言できるようになるだろう。また、生活環境の違いから「決まりのある中の自由」について、様々な場面について話が広がるであろう。身近な場面を思い浮かべることで、教材の出来事を自分事として考えを深めることができるだろう。さらに、机間指導や全体的話し合いの中では、自他の権利と自律的に判断する力ということを意識させるようにする。

手立て②自己内対話の導入⇒きまりはいるのか、それともいらないのかを一次決定し、理想的な行動を理解はしても、「実際にできるかどうか」「周りは納得するか」などを考え、見つめさせる時間をとる。序盤と終盤に配置することで、教材と自分を近づける。

(4)ねらい 小5：きまりがいらなくなったわけを考えることを通して、よりよい生活のために大切なことは何かを考え、判断し、行動していこうという心情を育てる。

中2：きまりがいらなくなったわけを考えることを通して、よりよい生活のため に大切なことは何かを多面的・多角的に考え、判断し、行動していこうという心情を育てる。

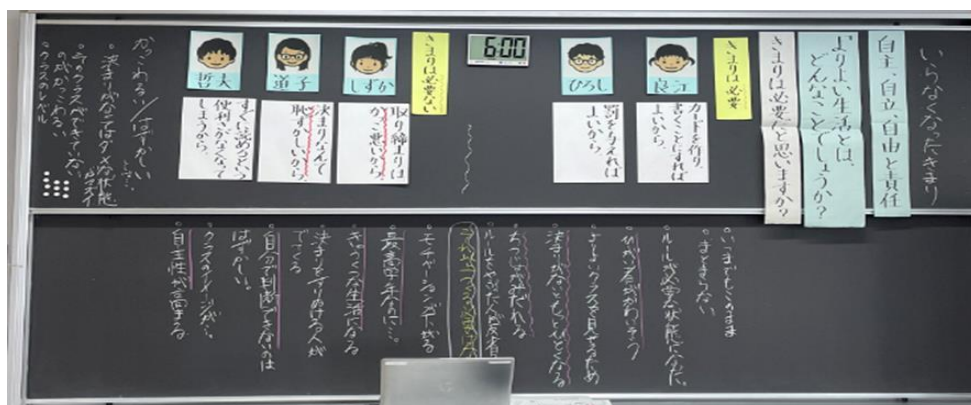
4 展開

過程	時配	学習活動 (○)	支援・手立て (○) 評価 (●)	資料等
導入	5	○教材にかかわる内容を確認する。		
展開 1	15	○教材「いらなくなったきまり」を読む。 ○題材名は明記せず読み進める。 ○登場人物5人の意見や考えを確認する。 ○中学生にはしづかさん、道子さんの言葉「かつこ悪いと思います。」「恥ずかしいと思います。」の意味にも触れさせながら発表させるように促す。	○それぞれの意見を提示する。(T2) ○ミライシードの入力などを促し、スクリーンに生徒児童の考えの順位がわかるようにし、考えを共有する。	場面 絵 写真

展 開	20	○個人でワークシートに記入し、一次決定を行う。		ワ ー ク シ ー ト
	2	あなたがクラスの一員だったら、学級文庫にきまりは必要か。それはなぜか。 ○ミライシードに入力する。 A：きまりは必要 B：きまりは必要ない ○決定した理由を全体で共有する。 ○班で話し合いをし、代表の生徒がミライシードに入力し、全体で共有する。 ○「よりよい生活」をするために大切なことは何でしょうか。	○ミライシードの入力などを促し、スクリーンに生徒児童の考えがわかるようにし、考えを共有する。 ○理由を聞きながら板書する。 ○生徒・児童の発表内容をもとに、教師が問い返しをしながら話し合いを進める。発表内容で問い返しを変更することがある。 ○小、中の学校生活の違いなどを引き出させていく。 ○ルールとマナーの定義について確認する。	
終 末	10	○個人でワークシートに記入し、二次決定を行う。		ワ ー ク シ ー ト
		あなたがクラスの一員だったら、学級文庫にきまりは必要か。それはなぜか。 ○「よりよい生活」とはどういうことだろうか。今日の授業で考えたこと、学んだことを Teams 内の振り返りに入力する。	○一次決定から理由に問わず、自由に書いてよいことを指導する。 ○気持ちの変化、心の中も書くように伝える。 ○小学生と中学生の発達段階を考え、ワークシートの質問内容の表記や内容を変更し、記述しやすくする。 ●様々な考えに触れ、自分の考えを見つめなおすことができたか。(ワークシート)【態度】	

2 授業の様子

(1) 板書



(2) 児童生徒の様子

小学生は、一次決定から中学生の多面的な考えを受け、二次決定ではより深まった意志決定が出来た。中学生は自分本位ではなく、集団生活での場面を想定した考えや発言を発表する姿が見られた。授業後は、集団生活への意識が高まり、全体を優先して取り組む様子が、小中ともに見られた。また、中学校では、その後の小中の交流を企画し、実行するなど以前にも増して互いに積極的にかかわる姿が見られるようになった。

